様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 10 日現在

機関番号：３２６６４
研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：２０１０～２０１２
課題番号：２２５２０１９８
研究課題名（和文）　戦後文学芸術運動の基礎的研究
—１９５０～１９６０年代の新日本文学会を中心に—
研究課題名（英文）　A Basic Research Of Postwar Artistic Movements: Focusing Mainly On New Japan Literary Party(Shin-Nihon Bungakukai)around 1950s-1960s
研究代表者
山口　直孝（YAMAGUCHI Tadayoshi）
二松学舎大学・文学部・教授
研究者番号：３０２９７７４１

研究成果の概要（和文）：戦後の文学芸術運動の中心であった新日本文学会について、調査研究を行った。大西巨人・玉井五一などにインタビューを行い、事務局活動の実際など、従来詳しく知られていなかった点に関して、新たな証言を得ることができた。また、大西巨人・武井昭夫・湯地朝雄ら、新日本文学会の運営に深く関わり、運動論的な視点を持つ文学者の著述活動に関する考察を行った。重要でありながら、一般的には顧みられてこなかった彼らの仕事を分析し、歴史的意義の解明を試みた。

研究成果の概要（英文）New Japan Literary Party(NJLP/Shin Nihon Bungakukai) is the most important party in postwar artistic movements. But, the details of its activities have not still made known. I interviewed OHNISHI Kyojin, TAMAI Goichi. They are writers and had worked for the office of NJLP. We can get valuable information from their comments. I also studied the works of OHNISHI Kyojin, TAKEI Teruo, and YUCHI Asao. They are not only great writers, but also real activists. I presented significance of them in the history of modern Japanese literary.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２０１０年度	800,000	240,000	1,040,000
２０１１年度	600,000	180,000	780,000
２０１２年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総　計	1,900,000	570,000	2,470,000

研究分野：日本文学
科研費の分科・細目：基盤研究（Ｃ）
キーワード：新日本文学会・大西巨人・武井昭夫・湯地朝雄・玉井五一・政治と文学・記録芸術の会・『神聖喜劇』

１．研究開始当初の背景

新日本文学会を始めとする文学芸術運動の団体は、戦後文学を牽引する重要な存在であるが、その活動内容や歩みについては、まだ明らかになっていないことも多い。当事者の証言も断片的であり、政治的にあまりに偏向した意見も少なくない。本格的な研究を行うにあたって、まず資料を収集し、信頼するに足りる情報を蓄積する必要があった。

２．研究の目的

（１）新日本文学会の歴史、とりわけ 1950 年代･60 年代の活動を支部や周辺の運動団体も含めて、明らかにすること。

（２）精確な歴史的文脈を確認し、その中で会員であった文学者の批評や小説を意義づけること。

３．研究の方法

（１）新日本文学会の刊行物の収集・確認による活動実態の把握。『新日本文学』本誌はもとより、『現代詩』・『文学の友』などの関連誌、『新日本文学通信』・『新日本文学会東京支部ニュース』・『文学新聞』・『東京文学新聞』などの会報やニュース類も対象とした。また、関連する運動団体として記録芸術の会や文学集団トロイカにも注目し、『現代芸術』・『記録芸術の会会報』・『トロイカ』なども収集の対象とした。消息欄・通信欄の記述を重視し、情報を集積することで会員の推移や事務局の活動状況をとらえることに努めた。

（２）当事者に対するインタビューとその文書化。新日本文学会の運営に関わった人々のうち、大西巨人・武井昭夫・湯地朝雄・玉井五一の四氏に許可を得、インタビューを行うことができた。いずれも複数回実施し、収集した資料類を提示しながら、具体的な証言を引き出すことに留意した。インタビューは文章に起こし、可能な限り本人に手を入れてもらい、内容に正確を期した。また、収集した資料などに基いて注釈を施し、読み手の理解を容易にするように心がけた。

（３）文学論争に関する同時代の文脈の考察。民主主義文学の確立を目指す新日本文学会の活動は、既成文壇との間で摩擦を生じ、また、運動内部でも方針をめぐって意見の対立を起こした。数多い文学論争は、新日本文学会の活動のアクチュアリティーを物語るが、ほとんどが今日顧みられていない。モラリスト論争、文学者の戦争責任、スカラベ-サクレ論争、花田・吉本論争、第二次「政治と文学」論争などについて調査を行い、関連資料を収集した。論争当事者の文章はもちろんのこと、周辺の発言も可能な限り拾い、論争の影響圏を浮かび上がらせようとした。また、当時の文学場での評価とは別に、今日から振り返って論争がどのような歴史的意義を持つのかについて、再評価を試みた。

（４）会員であった文学者の著述の収集と分析。新日本文学会で活動していた文学者たちの中には、履歴や著述活動の全容が知られていない者も多い。大西巨人・武井昭夫・湯地朝雄・玉井五一の四人を主に、著述の収集を行い、書誌作成の準備を行った。大西巨人については、齋藤秀昭氏作成の「年譜」（大西巨人『五里霧』〔講談社文芸文庫〕所収）が、また武井昭夫については田中禎孝氏作成の「武井昭夫　著作・座談など年譜」（私家版）がある。それらを利用して著述の現物確認を行い、漏れている文献を補う作業を行った。湯地朝雄・玉井五一については、書誌が存在しないため、本人への問い合わせを随時行いながら著述を集め、書誌作成の準備を行った。また、それぞれの批評活動について、文学運動との関連を踏まえてどのような歴史的意義を持つのかを考察した。

４．研究成果

（１）大西巨人氏・玉井五一氏に行ったインタビューを活字化することができた。大西氏については五件、玉井氏については二件（予定一件を含む）を公にしている。いずれも本人に内容確認を行い、必要があれば加筆修正を施してもらった、信頼度のきわめて高いものである。いずれのインタビューについても、詳しい注を付け、読み手が文脈を容易にたどれるように工夫した。

雑誌論文（10）では、『近代文学』同人加入および脱退の経緯、中野重治・花田清輝・武井昭夫との関わり、『神聖喜劇』の文体などについて、新たな証言を得た。（９）では、出血性体質であった大西赤人氏が浦和高校への入学を不当に拒否された事件をめぐり、大西一家が、また、「大西問題を契機として障害者の教育権を実現する会」がどのような取り組みを見せたのか、当時の大西家の様子がどのようなものであったのかについて、詳細に語ってもらった。（７）では、代表作『神聖喜劇』の作意や二十五年に及ぶ執筆期間における苦労を披露してもらった。同時に、執筆の際に作者が用いた『神聖喜劇』タイム・テーブルを新出資料として紹介した。（６）は、短歌の受容に絞って話を聞いたもの。『神聖喜劇』において膨大な数の短歌の引用がありながら、主人公東堂太郎が短歌を作らない意味などを問うた。（３）では、大西文芸全般に話題を広げ、神社を繰り返し舞台として登場させている狙いなどについて述べてもらった。五つのインタビューを通して、大西の文学運動への関わり、創作姿勢についてより正確な認識が可能となる条件をある程度整えることができたと思われる。（２）は、玉井五一氏にこれまでの歩みを語ってもらったもの。さまざまな運動体に関する証言が貴重であるのは言うまでもないが、戦前ナショナリズムに共感していた少年が、戦後にマルクス主義に触れることで文学運動に関わるように変容していく過程は、戦中派世代の精神史の典型として評価することもできよう。（１）では、（２）を踏まえて、文学集団『トロイカ』・記録芸術の会・新日本文学会での活動をふり返ってもらった。参考資料として、公共図書館に一部しか所蔵されていないため、通覧が困難であった『記録芸術の会月報』の総目次を付載した。

大西氏・玉井氏の証言は、初めて公にされる貴重な情報を多く含むもので、今後文学運

動を研究する上で基本資料となるものであろう。大西巨人のインタビューについては、すでにいくつかの論考で参照されている。

武井昭夫・湯地朝雄については、まだ活字化に至っていないが、順次公にしていきたい。

（２）大西巨人・武井昭夫・湯地朝雄について複数の論考をまとめた。いずれの文学者についても先行研究が乏しい中、芸術運動を創作の核に置く彼らの特色を提示した。

（11）は、太郎・瑞枝という名前の主人公を選んだ大西の連作を貫く反時代的精神のありようを考察し、一般的な弁証法とは異なる発想が基底にあることを論じたもの。（４）は、1950 年代に執筆された未発表エッセイの解説。ゲオルギウ『二十五時』の反共主義を厳しく指弾する姿勢に、インターナショナリズムの志向がうかがえることを説き、同時代における卓越性を認めた。（８）では、武井昭夫の没後にまとめられた芸術論集を読み解き、主張の底流にある編集者意識を取り出し、集団制作の実現に結びつくものとして評価した。（５）においては、湯地朝雄の吉本隆明批判の特質に迫り、コミュニズムの一貫性が根源的批判を可能にしていることを浮かび上がらせた。

スカラベ - サクレ論争については、学会発表（１）で武井昭夫の問題提起がアヴァンギャルティズムの理解に止まらず、文学者の戦争責任と深く関わっていることを提示したが、活字化に至っていない。論争史と共に、できるだけ早くにまとめたい。大西巨人・武井昭夫・湯地朝雄の書誌についても同断である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 11 件）
（１）玉井五一・坂堅太・橋本あゆみ・山口直孝「玉井五一氏に聞く――戦後の文学芸術運動をめぐって」（『二松学舎大学人文論叢』第 91 輯、2013 年 10 月）
（２）玉井五一・山口直孝「玉井五一氏に聞く――一文学活動家・編集者としての戦後史」（『二松学舎大学人文論叢』第 90 輯、2013 年 3 月）
（３）大西巨人・石橋正孝・橋本あゆみ・山口直孝「大西巨人氏に聞く――作品の場をめぐって」（『二松学舎大学人文論叢』第 89 輯、2012 年 10 月）
（４）山口直孝「批評のインターナショナリズム――大西巨人「寓話風＝牧歌的様式の秘密」の位置」（『季刊メタポゾン』第 7 号、2012 年 10 月）
（５）山口直孝「革命に向かう持久の思考――湯地朝雄「大衆はどこへ行ったか――吉本隆明における戦後責任と戦後転向」解題」（『社会評論』第 170 号、2012 年 7 月）
（６）大西巨人・大西赤人・鎌田哲哉・田代ゆき・山口直孝「大西巨人短歌自註　秋冬の実　第五回（番外編）」（『メタポゾン』第 5 号、2012 年 3 月）
（７）大西巨人・田中芳秀・橋本あゆみ・山口直孝「大西巨人氏に聞く――『神聖喜劇』をめぐって」（『二松学舎大学人文論叢』第 88 輯、2012 年 3 月）
（８）山口直孝「「無名」への意志――武井昭夫『創造としての革命』論」（『社会評論』第 168 号、2012 年 1 月）
（９）大西巨人・大西赤人・鎌田哲哉・田代ゆき・山口直孝「大西巨人氏・大西赤人氏に聞く――浦和高校入学拒否事件をめぐって」（『二松学舎大学人文論叢』第 87 輯、2011 年 10 月）
（10）大西巨人・飯島聡・鎌田哲哉・山口直孝「大西巨人氏に聞く――「闘争」としての「記録」」（『二松学舎大学人文論叢』第 86 輯、2011 年 3 月）
（11）山口直孝「大西巨人・連環体長篇小説考――『地獄変相奏鳴曲』・『神聖喜劇』における回帰の弁証法」（『日本文学』第 59 巻第 11 号、2010 年 11 月）

〔学会発表〕（計１件）
（１）山口直孝「戦争／戦後責任論争としてのスカラベ-サクレ論争」（ＨＯＷＳ戦後文学ゼミナール、2010 年 12 月 19 日）

〔図書〕（計０件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
山口直孝（YAMAGUCHI Tadayoshi）

研究者番号：３０２９７７４１

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：